

ディスカッション

著者	加納 千恵子, 林 立萍, ヴェントゥーラ フランチェスカ, パルデシ プラシャント, ヴォロビヨワ ガリーナ, トリーニ アルド, 濱川 祐紀代, 高田 智和
図書名	世界の漢字教育 : 日本語漢字をまなぶ : 国立国語研究所第8回NINJALフォーラム
ページ	68-78
発行年	2017-01-20
シリーズ	NINJALフォーラムシリーズ ; 6
URL	http://doi.org/10.15084/00000944

デイスカッション

パネリスト：加納千恵子、林立萍、フランチェスカ・ヴェントウーラ、ブラシャント・パルデシ
ガリーナ・ヴォロビヨワ、アルド・トリニー、濱川 祐紀代

司会：高田 智和

高田 司会は、国立国語研究所の高田が

務めます。私も入れて八名と、これまでの
NINJALフォーラムのなかでは一番多い
登壇者だと思います。デイスカッションをは
じめる前に、さきほどのトリニー先生のご報
告で時間がなくなっていましたので、五
分ほどで補っていただけだと思います。

トリニー 全部話せなかったのは残念ですけ
れど、そのあとは私が作った練習問題を見せ
たかったのです。さきほど申し上げたよう
に、形の似た類似の漢字は文字をはっきり見
ないので間違えやすいです。ですから、準備
教育としては、やっぱり練習させればよい。
見ているたくさんの漢字のなかで一つを選ぶ
ことは、目を習わせることですよね。慣れて
いないから、できるだけ早く、正確に、一つ
の漢字を見つけたすという練習問題です。な

んというのかなあ、スムーズな読み方のため
に必ずしなければならぬことだと思いま
す。

もう一つできなかった話は、漢字の非局在
化 (delocalization) です。私がそういう名前
をつけたのです。どういう問題かというと、
自分自身の経験で考えたことですが、たとえ
ば、私が東京に長く住んでいて、いつも地下
鉄に乗って、いつも同じ駅に降りて名前を見
ていました。たとえば、吾妻橋。毎日毎日毎
日見ていました。あるとき、最初の漢字の
「吾」が、違う漢語のなかでわからなかった。
毎日見ていたのに。何回も何回も見たことが
あるのですが、どうしてもわからない。どう
しても思い出せない。つまり、目が慣れてな
い語彙のなかに違う組合せを見ると、ときど
きわからないときもあります。それは非局在
の問題ですよ。つまり、私が駅の名前を見る

とき、漢字を一つひとつ認識して、組み合わ
せて読むのでなくて、一つのことばとして読
んでいたからです。漢字は見ないで、ああ、
この組合せは吾妻橋だ、ということですよ。そ
うしたら、最初の「吾」を別の漢語で見ると
きにわからない。それも語彙として読むから
です。私たちが漢字を読むとき語彙として読
むのです。そういうことから、たくさん
の練習問題を作ったわけです。目が語彙とし
てだけじゃあなくて、漢字一つひとつに絞っ
て認識するという練習問題です。今度もし時
間がもつとあれば全部やります。

高田 ありがとうございます。それでは
デイスカッションをはじめます。

さきほど、濱川さんからのコメントで、
デイスカッションの話題が示されました。漢
字学習にはさまざまな困難があります。特

に、日本語非母語話者に特有の困難があると、基調講演からはじめて皆様のご報告にありました。困難があるにもかかわらず、報告者の皆様は学習者として漢字学習を続け、日本語で講演をし、発表資料を日本語で書きこなす上級レベルに達しました。これまで漢字学習を続けることができた理由を、お一方ずつお話しただけだと思います。

ヴォロビヨフ

私の専攻は数学ですが、日本文化に興味を持って四十六歳で趣味として日本語を勉強しはじめました。でも、どんな言語かまったくわかりませんでした。最初は平仮名を覚えていただけで、以前使っていたアルファベットとキリル文字と大きく異なる、とても覚えにくい文字だと思いました。苦労して、学習の困難を乗り越えて、片仮名も習いはじめました。これもとても難しかったです。そして、漢字を勉強しはじめたとき、非常に難しくなっていて、もう日本語の勉強をやめるしかないと思いました。漢字学習の最初の段階で一番大きい問題になったのは、いくら頑張っても覚えた漢字は、次の日にはもう覚えていないと感じたことでした。その理由

は、同時に大きな知識、つまり漢字の形、読み方、語例、筆順などを覚えなければならなかったからです。困難の例として、ある出来事をご紹介します。クラスメイトの一人は書き取りで、どの「き」でも、木曜日の「木」、どの「か」でも、火曜日の「火」を書きました。それは表音文字のアルファベットと表意文字の漢字の基本的な違いが非漢字系学習者にとってわかりにくいという状況の例でした。漢字学習をはじめたばかりの非漢字系の私たちにとって漢字は別世界のようでした。漢字で書かれた文章を見たときまるで宇宙人とのコミュニケーションの試みをしているような感想でした。

漢字学習を登山にたとえることができます。実は、私は五十歳のとき富士山に登りました。苦しかったですけれど目の前の頂上を見ながら、我慢して頑張っていました。結局頂上まで登ると目の前にきれいな世界が広がりました。富士山から日出を見て私はとても幸せでした。漢字学習も富士山への登山と同じように苦しくても、勉強すればするほど漢字を深く理解して、漢字の世界は目の前にきれいに広がります。いつの間にか私は漢字



学習の楽しさ、面白さを感じました。漢字を使つてさまざまな言葉を作ることができることは私にとって不思議でした。また、それぞれの漢字には読み方がいくつかあつて、驚いていました。たとえば、漢字「日」がはいっている語例には「日曜日」、「休日」など、その漢字の読み方が違う単語がありました。私の日本語の萩原幸子先生は全力をつくして、教えてくださっていましたから、私はそれに応じて我慢して日本語学習をやめないで一生懸命頑張っていました。最後まで闘つて、日本語能力試験の一級に合格しました。そして日本語教師になって、私の学習者の負担を軽くして、漢字学習を楽しくするために漢字教材を作成しました。そして漢字学習の効率化を目指して研究して、その成果を博士論文にまとめて日本で博士号を取得することができました。漢字学習の困難を乗り越えた人は強くなると信じています。

パルデシ 私には、漢字はインド料理で使うスパイスと同じように見えました。組合せでいろいろなものができる。加減が違つて味が違う。無限大に組合せができて、無限大にい



ガリーナ・ヴォロビヨワ

ろいようなものが調理できる。サスペンスドラマと同じように複数の漢字を組合わせて、それはどういう意味なんだろうかと想像していました。私はインドにいたとき英語がとても苦手でした。なにが苦手かというと、綴りを覚えることです。フランス語は綴りと実際の発音がまったく違っています。そのとき、ルソーについて勉強したので、ルソーの綴りR、o、u、s、s、e、a、uを十回以上描いて覚えました。日本語の場合、飛行機という単語を学んだとき、ほんとうに鳥肌が立ちました。飛んでいく機械。なんというわかりやすい言葉かと思いました。表音文字で理解できない単語は、表意文字で理解できること

が多々あります。

もっと面白いのは、読まなくてもわかるということです。これは最大の武器です。学生の「学」という字を学んで、そのあと「見る」という字を学んで、そのあと「見学」という組合せができる。「見学」という言葉は、私は辞書を調べないで理解できたんです。これは漢字のすばらしい力と思いました。それから毎日、サスペンスドラマを見るように漢字の組合せをやつて、自分の考えている意味があつてどうかチャレンジし続けました。それがいまでも続いています。

ヴェントウーラ 私が漢字の勉強を続けてきたのは、日本語を勉強しはじめた頃から漢字が絵みたいで、すごくきれいだなあと感じていたからです。その結果、漢字を勉強する意欲が高くなりましたが、友だちにもどうして同じような楽しみがなかったかを不思議に思っていました。漢字を勉強すればするほどいろいろなことが分かります。プラシヤント先生がおっしゃったように、漢字を勉強するといろいろな情報が読み取れるから漢字は面白くてすごく役に立つと思いますので、これ

からも漢字の勉強を続けたいなあと思つています。

単語カードを作つて、勉強していたとき、おばさんが私のカードを見て、「あのー、それはお祈りですか」とかいわれたことがあります。ほんとうに漢字の勉強が好きだったら、そして漢字の価値がわかっていたら、学習者は変に思われても、さまざまなストラテジーを使つて漢字を習うために努力し続けると思います。

林 漢字圏の国ですので漢字をまなばなくてもいいというような印象ですが、じつは、日本語の漢字は私にとってはやっぱり外国語です。漢字には一つの文字のなかにたくさんさんの情報がはいっているんで、見るだけで楽しい。また、楽しく勉強できるもう一つの主な理由は、文化に接触することができることです。基調講演で加納先生が、漢字は文化だといわれましたように、漢字のなかにいろいろな文化がはいっているんです。それを勉強するたびに、日本の文化だけではなく中国の文化も見られるということです。

たとえば、「走」という漢字、なぜ走ると

いう意味になるのか。現在われわれの使っている中国語では、歩くという意味になります。同じ漢字ですが違う意味です。昔の「走」という漢字でしたら「はしる」という意味でしたが、どんどん変わっていきますので、この漢字を通して、現代のわれわれの知っているもの、接触しているものと、また日本の考え方と昔の中国の考え方を漢字を通して知ることができるので非常に楽しい。私にとっては。

もう一つ、日本人は漢字を勉強して、新たに自分の文字も作りだした。和製漢字といったものですね。たとえば、「峠」という漢字。その形からまた新しい漢字が作られてきまし



林立萍

た。これを見て、私たちがどう読んだらいいのかわからない。そこからまた日本人の発想が見えるので、非常に楽しいということ。楽しくやってこられるわけです。

トリニ 漢字学習が続けられた理由は、私の場合だと、まず試験があったからです。それは半分冗談、半分まじめです。大昔ですが、留学生として学位をとるためには漢字は欠かせない能力です。それも大事なことです。それは強い動機にもなっています。私たちの学生もそうじゃあないかなと思います。

漢字を続けた理由というより、どうして日本語をはじめたかという問題です。日本語をはじめたら必ず漢字にぶつかるから、しょうがないから習う。それとも好きだから習う。とにかく習うしかないんです。そうしたら、どうして日本語を選んだかという、やっぱり文化ですね。日本文化をもっと知りたい。西洋人の若い男の子としては、魅力的な文化、自分のまったく違う文化と思えば、やっぱり日本の文化ですよ。西洋人としては、日本文化は魅力的です。それで日本語をはじめたんです。日本語は、日本文化を深

く理解できるように一つの手段としてまなんだわけですよ。

あと二つの理由があるんです。一つは、漢字を覚えれば本が読める。これはかなり大きい動機ですよ。本が読めないと、実際に日本の文化に触れることはできないんです。翻訳ばかり読んでいては、なかにはいれない。ほんとうになかにはいろいろとすれば、やっぱり日本人が書きたいいろいろな時代の、昔からいままでの自分の文化、自分の社会について書いた本を読まないでだめです。

もう一つは、漢字が不思議な文字で、プラシヤントさんもそうおっしゃったんですけれど、その魅力もあります。ローマ字育ちの私としては、ローマ字は非常に理想的ですよ。すごく簡単ですぐ習えるんです。とっても合理的です。特にイタリア語はそうです。英語は違って、ちよつと綴りがおかしいというか……、ですね。あまり合理的じゃあないけれど、イタリア語は文字をそのまま読めばいいわけですよ。それはすごいです。だけど、魅力があんまりない。魅力といたら、ちよつとミステリーがあつて、ちよつと難しく、奥が深く、すぐわからない。一生懸命勉強



アルド・トリニーニ

しないと理解できないというのは、魅力の一つですね。その不思議な文字に魅力を感じて習いはじめたわけです。

文字学習はどこが楽しいかということですね。私は山男です。よく山登りするんです。私は高い山に登りたくなるんです。低い山はどうでもよく興味はない。高い山ほど登りたい。チャレンジですよ。漢字を習うのはチャレンジです。チャレンジが好きな人は、やっぱり漢字を習うのは楽しいです。毎日一つひとつ習って、高い山を登るような感じがします。頂上にたどり着くかどうかかわらないんですけれど、諸橋さんの『大漢和辞典』には五万字あるので、そこまで習ったら人間の頭

が狂っちゃうと思うのですけれど。それでなくとも、やっぱり登るとき、だんだん上がっていった空気がおいしくなるんですよ。漢字もたくさん習ったら漢字の空気がおいしくなるということです。

濱川

私は日本人ですが暗記がほんとうに苦手で、漢字を覚えるとか、社会の年号を覚えるといったテストのときには、赤点をとってきました。なので、ここにいらっしゃる先生方のような優秀な学習者とはちよつと違います。私は覚えるテストに関してはかなりの努力を積み上げてきたと思います。それでも失敗をしてきたんです。そういう私から見える景色としては、初級だけでつらそうにしている学習者の顔が目によく浮かんできます。私はそういう学習者に、この壇上の先生方のようなきれいな景色を、またはワクワクした感じをどうやって見せられるんだろかということ、ほんとうに知りたいところです。ここの壇上で、この短い時間では伺い知ること、ほんの少ししかできないのかなあと思います。いま先生方が話してくださったことをもう少し咀嚼して、教師の知見とし

て身につけて自分の授業に活かしていきたいなあと思いました。

一つ、それぞれの先生方が違う方法を使っ
てここまで乗り越えてきたということがいえ
るのではないかと思います。文字体系とい
うような広い視点から見ている方もいらっし
やれば、一つひとつ単語帳を作って、自分な
りのオリジナルの方法で学習を継続してきた方
もいらっしやって、そこには大きな差がある
んじゃないかと思います。教師としては、い
ろいろな方法があるということを知って選択
肢の幅を広げて、たくさんいる学習者に提供
して選んでもらうことができれば、少し幸せ
な世界が広がるかなあと思いました。

共通して話していたことの一つは、学習を
はじめた動機と漢字学習を継続してきた理由
は、違ったんじゃないかなと私は受け取りま
した。漢字を学ぶ先になにかあるのか、漢字
を学んで、その漢字をどう使いたいかとい
うところに向かって、学習が続けてきた。あ
きらめないできたということがあるのかなあ
と感じました。以上です。

加納 私は漢字学習を続けてきたというよ



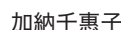
濱川 祐紀代

り、漢字を教えることを続けてきて、濱川先
生がおっしゃっていたように、どうやって教
えたいんだろうか、どうしたら苦しい顔
ばっかりじゃあなくて学習者の楽しい顔が見
られるかをずっと考えてきたわけです。い
ま、壇上にいる先生方のお話を伺っていて、
私が見てきた学生たちのなかでも理系の分析
的な理論派の人たちは、やっぱり、文字の構
造とか、どのように文字体系としてはたらい
ているかという機能にもすごく興味をもつ
らしいと思いました。なにも私たちが
いわなくても、自分で興味をもってどんどん
進めてくれる人が多いんですね。

それから、ヴェントウーラ先生が、はじめ

て漢字を見たときにすごく美しいと思ったと
おっしゃいましたが、そういうアートの感覚
をもっている学生さんもわりと文字が好き
で、日本語は残念ながらあまりうまくなら
ない人もいます。いろいろな色をつけて絵にし
たりするのものがすごく好きだという方もい
ます。漢字を楽しんでくださっている。それが
ことばの勉強にもつながっていくはずらし
いと思うんです。そういうご自分のなかに魅
力的なものとか、不可思議なものをキャッチ
する、トリート先生がおっしゃるようなチャ
レンジしたいというような心をもっている方
は、教師から見るとすごく助かるというか、
なにもしなくてもどんどん伸びていくてくだ
さるのですけれど、そうではない大半の人た
ちは、仕方がないからやっているとか、単位
がほしいからとっているというか、卒業でき
ないといけないから、なにか一言言葉をやら
なければいけないくて、ちよつと間違つて日本
語をとっちゃったかも、というような人たち
もいます。じつはそれは間違いともいえなく
し、面白いこともあるので、少なくとも日本

教えている教師が日本人だと、自分たちは気がつくと言めるようになっていたので、どうやったらいいのかというノウハウについては聞かれてもわからない。「とにかく、たくさん書けばいいんじゃない?」というような国語の方式しか知らない先生が多いので、今日伺ったような非母語話者の学習者として成功して、いまその言語を使って実際にこなすをしていらつしやる方の体験談はものすごく貴重なんですね。ですから、教室で教授法、学習法として紹介するのもいいんですけれど、ネットの時代なので、こういう情報を身近で聞いたり、読んだりできるようなサイトがあったらいいなあと、今の話を聞いていてすごく思いました。学習者のなかにも、いまのお話が日本語だったのでもちよつと理解できないようなレベルの人でも、母語でそういった話を聞くとすごく共感できるころはあるんじゃないかと思いました。そういう意味では、こういう情報も学習を支援するためには



それからトリ―二先生がおっしゃったことです。ごく大事だと思ったのは、試験があるから勉強するということです。それは多くの学習者にとって当たり前のことなんです。先生方が非常に苦勞して作ってくださっている教材とか教育法、勉強の仕方がどんなに新しく啓蒙的であつても、評価の方法がかわらないと、実際のところ学習者はただそれを聞いて、ああすごいなあと思つても、実際にやるのは丸暗記だったり、明日テストだから一生懸命覚えて、テストが終わつたら忘れるようになりがちなんです。それで、勉強の仕方とか教材の情報も大事ですが、テストの在り方

高田 さまざまな方法があつて、それぞれの困難を乗り越えるためにいろいろな方法を使つてきたということが紹介されました。

それでは、もう一つお聞きしたいと思います。今日は、「日本語漢字をまなぶ」ということですが、皆様が考える理想的な漢字学習についてお聞きます。留学して日本国内で日本語の漢字をまなぶ場合もあるでしょうし、それぞれ自国で漢字をまなぶ場合もあります。また、教室の中か教室の外かなどいろいろな場面があります。理想的な漢字学習について、お一人ずつお考えをお聞かせください。

トリーニ 理想的な漢字学習とは、私の報告のなかでも触れましたが、やはり文字プラス

語彙としての漢字教育が一番理想的だと思います。漢字だけ、文字だけとして漢字を習うのではなくて、語彙としても習うことがとても大事なことです。

もう一つ、普通、漢字を外国人に教えるのはだいたい日本人の講師ですよ。イタリア人で漢字を教える人はあんまりいない。これに私はちょっと疑問をもっているんです。なぜかという、ある程度、外国人の目で漢字を理解ができないと、教え方が徹底的にできないですよ。たとえばですね、日本人は漢字を、当たり前のこととして教えるんですよ。私も昔、イタリア語をちょっと教えたことがあるんですけど、なにも勉強しないでも、母語話者ですからなにも問題ない、簡単にできると思っていたんです。でも、質問されても答えられない、答えができないんですよ。どうしてこうなっているかわからないですよ。当たり前としての文字を知るの、なにか物足りない感じがします。だから、私たちが外国人としてどうやって文字を、漢字を理解するか、どうやって見るかがとても重要だと思います。ですから、漢字を教えるとき、日本人と外国人が一緒に教えるのが理想的で

す。

ヴォロビヨフ

私は今まで理想的な漢字学習を三つの立場から考えました。最初は日本語学習者として、それから日本語教師として、そのあと、漢字教育の研究者として効率的な学習法・指導法を考えました。その三つの視点の間に大きな差があるといえます。つまり、学習者は漢字の学習法に対する知識が浅くて、教師の指導に依存しています。また、現場の教師も漢字の指導法を学ぶ可能性が限られて、主に丸暗記に頼って漢字を教えています。それに対して研究者は視野を広げる可能性があって、先行研究を基盤にして学習法



高田智和

の改善、効率化に対して新しいアイデアを生み出します。効率的な漢字学習法のなかに連想記憶法、唱えことば、漢字の空書、漢字カード、マインドマップ、概念の地図、学習用のコンピュータソフトなどがあります。さらにオーストラリアのバーバラ・バーク先生が五十以上の漢字学習ストラテジーを記述しました。漢字教育研究の成果についてさまざまな本や雑誌や論文で読むことができますけれども、現場で漢字を教えている教師はその重要な研究についてあまり知らないです。それは、その事情をとっても残念に思っています。できるかぎり、理想的な漢字学習を考慮に入れて、漢字の指導の手引きや教科書を作成するようにしています。

理想的な漢字学習というのは、まず楽しい学習だと思います。漢字は難しい、怖いという学習者の心理的障壁を乗り越えないと学習者にとって効率的な学習をするのは難しくなっています。目標達成感がないです。漢字の楽しさ、重要性を説明すると、学習者は喜んで力を入れて学べるようになります。現在さまざまな学習者のタイプがあって、それぞれのタイプにふさわしい教材作成が必要です。あ

る人は日本に留学して漢字学習をしています
が、ある人は自国で趣味として漢字を勉強し
ています。それぞれの考え方、ニーズを考慮
に入れて教材を作るのが必要です。

私の考えでは、漢字学習の大きい問題にな
るのは漢字の長期記憶です。丸暗記の方法が
広く使用されていますけれど、ほかにもさま
ざまな学習法があります。漢字を機械的に覚
えるより、漢字の構成を理解して効率的な学
習ストラテジーを利用して意図的に覚えるこ
とが望ましいです。理想的な漢字学習法は、
将来開発されると信じていますが、それに貢
献するために現在漢字学習の改善、効率化を
目指して、私たち、日本語教師と日本語研究
者が努力しなければならないと思います。

パルデシ 私は日本語教師を四半世紀前に短
く一年半だけやっていましたが、漢字の理想
的な教え方は知りません。ただし、理想的な
学習法は三十年やっていましたのでわかってい
ます。それはなにかというと、「石の上にも
三年」、「努力することです。もう一つは、「桃
栗三年、柿八年」、時間をかけてやることで
す。その心構えがないと漢字は学べない。い



ブラシャント・パルデシ

ろいろな外国語を学びましたが、挫折す
る人はだいたい六か月で挫折します。長く続
く人は何年でもやります。ですので、興味の
ある人がモチベーションを自分で持ち続けて
学習するのが一番いいかなあと、私はさまざ
まな言語を学んで思いました。たくさん練習
すること、ワインは長く置いておけば味が
でるのと同じように、長い時間かけてやるこ
とが大事だと思っています。

ヴェントウーラ 周りの声を聞くと、皆さん
は漢字は難しいとか、学習者のモチベーショ
ンが低いとかいろいろ聞いているんですが、
自分の頭の中での理想的な学習と理想の授業

は、学習者が漢字の面白さと価値をわからせ
る、気づかせるような学習です。さきほど、
フィリピンの話をしました。学習者のニー
ズにあわない授業をすると、学習者の動機が
落ちてしまうので、学習者のニーズとレベル
にあっている教育が一番よいと思います。

最後に、漢字の数の話があったので、たぶ
ん二千以上の漢字をすべて教室の中で教える
機関が少ないと思われるので、学習者が自立
的に漢字を勉強できる力を備えるような学習
もよいと思います。

林 台湾は漢字を使っていますので、台湾で
日本語を勉強するときに漢字を教えないのが
普通です。教えようとしても時間の無駄だと
いわれています。教室で日本語を教える時間
があんまりないので、理想的な漢字学習と
いったら、やっぱり学生さんの自立学習にな
ると思います。自立学習になると、一番やつ
てほしいというか、考えてほしいのは、相違
点から着目することです。そうすると、効率
的に日本語の漢字をさらに自由に使えるよう
になる。またそこから、日本の文化を楽しむ
ことができるというような考え方もつく

れるようになったら理想的な漢字学習になるのではないかと考えています。

濱川 理想的な漢字学習と問われましても、まだ私、漢字学習に成功したと思っていませんので、コメントしづらいところなんですけれど、さきほどからでていますように、漢字学習そのものには努力は欠かせないと思います。努力は必要だと思います。ただ、漢字のクラスがないという台湾の例や、初級しか教えないといった例はたくさん聞きます。なので、漢字は一人でやりなさいというのが一つの流れであるかなと思いますけれど、私自身はこれは教師の役割を放棄しているのではないかと思っています。そうはいっても、放棄ではなくて、どう教えたらいいか、なにを教えたらいいかということが検討されていないから、まだ授業として成り立っていないという可能性もあるかもしれません。

そういった意味で今後のことを考えますと、さまざまな専門をもった人が日本語を学んでいますので、たとえば、数学という話もありましたけれども、数学を専門としているような人がどんな日本語のことばが必要なの

かといった研究も必要でしょうし、介護看護に関係する人たちのための語のリストアップ、教え方も必要になるかなと思います。また、生活者として暮らしている外国人の方々のためのことばも必要になるかと思っています。そういった研究を待ちたいなあと思いますし、もしそれが実現しているのであれば、積極的に広めていきたいなあと思いました。

理想的な漢字学習を無理矢理考えてみますと、専門分野がなにか、その漢字を学んでなにがしたいのか、その漢字の知識をどこに活かしたいのかという視点が大切で、そのことを学習者自身にも考えてもらうこと、そして、教師からも、それを問うていく、質問



フランチェスカ・ヴェントウーラ

していくということも大事だろうと思いました。

加納 今日私は私自身いろいろな漢字学習に成功された方のお話を聞くことができてとても勉強になりました。何人もの先生がおっしゃったように、学習者も一人一人、なんのために日本語を勉強するのかという目的も違いますし、それから好き嫌いもあるので、どんなことをするのは好きか、どんなことは苦手かというのとは違っているので、理想的なものが一つ、これというのはいえないと思います。ですから、いろいろな引き出しを教師は用意しなければいけないというのは、濱川先生のおっしゃったとおりだと思います。私たちが食事をするとき、好きなものから先に食べる人と、好きなものは最後にとっておく人がいるのと同じように、ことばを勉強するとき、その学習者の母語とか母文化によって、苦手だと思うところを克服する形で勉強を進めるチャレンジが好きな人と、やっぱり楽しいこと、面白いことからはいって、徐々に、最後はなにかできるようになってよかったとなる道筋をたどる人とか、いろいろあると思います。

した。特に漢字のどこに魅力を感じているかが違うことがわかっただけでも、参考になります。教える側も学習者を注意深く見て、それから、教える側に日本人ではなく、学習者と同じ立場に立つ先生がふえれば、もう少し引き出しの数もふえると思いますし、アプローチもふえていくかと思います。学習者の

方はやっぱり、難しいからこそチャレンジしたいという人はそのような意気込みで、石の上に三年座っていたきたいと思いますが、そうではなくて楽しいからやってみたい、面白いからはじめてみたいと思う人には、その段階段階にあった、なにか楽しさを見せてあげられるような学習方法も必要かなと思います

した。今日はほんとうにありがとうございました。

高田 講師の先生方、どうもありがとうございました。以上でディスカッションを終わります。